



2015年(平成27年)1月15日

発行: 東京都立大学 附属高等学校同窓会 〒152-0023 東京都目黒区八雲 1-1-2 桜修館中等教育学校内 編集: 同窓会報編集委員会

6月27日に定期総会を開催 多数のご出席を期待しています

来る6月27日(土)に、2011年4月以来の同窓会総会を開催します。多くのご意見をいただいで今後の同窓会運営に反映したいと考えています。ぜひご出席ください。

会場: 桜修館中等教育学校 2階「多目的ホール」
● 議事予定
活動報告、
会計決算報告、
および収支状況報告
会計年度の変更
会則・細則一部改定
今後の活動方針

今回の総会では、重要な議題が二つあります。ひとつは会計年度の変更です。現在の会計年度は、会則第22条によって、10月1日から9月30日までと定められています。暦年とは9カ月もずれているわけですが、これを是正して2015年度を来年の3月31日までの変則6ヶ月間とし、2016年4月からは翌年3月までをひとつの会計

「第二步」を踏み出す年に

理事長 穴戸迪武

明けましておめでとございます。新しい年をいかがお迎えでしょうか。母校の閉校からこの春で4年、同窓会も新たな会員が増えることなく4年が経ちました。閉校に際していくつかの閉校記念事業を行い、桜修館との継続性を確かめながら、会費による運

営を始めたのが、同窓会としての新たな「第一歩」だったと言えるのではないのでしょうか。今年度は、さらに「第二步」を踏み出す年にしたいと考えております。都大附属同窓会はどんな活動をしているのか、という問いかけに具体的に答えられるよう

にすることが目標です。計画しているのは、卒業生に八雲が丘キャンパスに帰郷してもらう「ホームカミングデー」企画と、同窓生による「講演会シリーズ」企画です。詳しい内容はホームページ、ご案内状、その他でお知らせいたします。本年もよろしくお願いへ。

INDEX

- 6月27日に定期総会開催.....1
- 創立85周年、3校の軌跡.....1
- 桜修館10周年に向けて.....2
- 第2回「八雲が丘賞」.....3
- 事務局インフォメーション.....4,5
- 第66回記念祭特集.....6,7
- 學フォーラム報告、寄稿.....8
- 思い出の部活動、寄稿.....9
- 同窓会・クラス会レポート.....10,11
- 計報、編集後記.....12

創立85周年、3校の軌跡

旧制府立高校創立から85年。改めて歴史を共有する3校の軌跡を振り返ってみます

寮。戦中最後の記念祭。東京都制実施に伴い、校名が都立高等学校に。

1944(昭和19)年

勤労動員先で授業。4月入学、授業開始は9月。尋常科御殿場疎開。9月卒業式

1945(昭和20)年

3月卒業式。グラウンドは畑に、弓道場に教職員住宅

1946(昭和21)年

第18回入学式(最後の入学式)

1947(昭和22)年

新学制(6・3制)にともない尋常科募集停止

1948(昭和23)年

尋常科が都立新制高校となる。校旗、校歌、校章は新制高校が継承

1949(昭和24)年

高等科は募集を停止し、東京都立大学となる。都立新制高校は、東京都立大学附属高等学校となり、女子20名募集、男女共学となる

1950(昭和25)年

旧制都立高等学校閉校

1943(昭和18)年

戦時、半年短縮。9月卒業

1944(昭和19)年

学徒出陣(14名入隊)。勤労動員。9月卒業。南寮、北寮開

1929(昭和4)年 7年制の府立高等学校、府立一中(現日比谷高校)校舎内で開校。尋常科80名、高等科160名。初代校長・川田正激

1931(昭和6)年

八雲に新校舎建設はじまる。東横線・柿の木坂駅が府立高等前駅に

1932(昭和7)年

八雲新校舎(鉄筋コンクリート3階建て)完成。インターハイ初出場

1935(昭和10)年

図書館開館。運動場完成。父兄会がプール寄付。校歌制定

1940(昭和15)年

国民精神総動員府高実行委員会が結成される。「校友会」を「報国団」と改称

1942(昭和17)年

戦時、半年短縮。9月卒業

1943(昭和18)年

学徒出陣(14名入隊)。勤労動員。9月卒業。南寮、北寮開

桜修館十周年に向けて

都立桜修館中等教育学校校長
金田喜明



明けましておめでとうございます。都立大学附属高等学校の同窓会の皆様におかれましては、ますますご清祥のことと存じます。

平成二六年四月に、都立桜修館中等教育学校の第四代校長として着任しました金田喜明と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、今年度、桜修館は創立十周年を迎えます。この間本校では、府立高校及び都立大学附属高校が目指してきた「自主自由と真理の探究の精神を、校章・校旗・校歌とともに受け継ぎ、6年間の一貫した教育活動の中で、世界の中の日本人としてのアイデンティティをもって国際社会を担う人材を育成するよう取り組んでまいりました。

開校以来、「論理的な思考力」を重視し、国語以外に

数学、社会科、理科などの教科でも、論理的に考えるように指導しています。また、一般の教科と別に「国語で論理を学ぶ」「数学で論理を学ぶ」という授業があり、一年生で論理的な思考とはどういうものかといった基礎から学習します。生徒たちはこうした授業を通じて、論理的思考力に欠かさない分析力・考察力・判断力などを養い、自ら課題を発見していくようになっていきます。

現在、大学入試改革がいろいろと議論されています。大学入試センター試験に代わる新しい入試は、単なる知識ではなく、論理的思考力・判断力・表現力等を適切に評価する問題になるといわれています。桜修館がこの十年間取り組んできた教育活動によって、新しい大学入試で求められる力や経験を、本校の生徒は

十分に身に付けることができると確信しております。

また、生徒たちは、学校行事や部活動にも夢中になって取り組み、仲間とともに創造することで一人一人を大きく成長させています。特に、クラスマッチと記念祭は、都立大附属高校の伝統を引き継ぎ、幹部の生徒を中心に企画・運営を行っています。その中で、自由の意義と責任の重さを実感し、自主自律の精神が育っています。

部活動では、今年度、前期弓道部が都大会団体男子の部・団体女子の部でいずれも優勝し全国大会に出場したほか、水泳部二百メートル個人メドレーでインターハイ出場、前期男子テニス部が団体の部で関東大会出場を



昨年の記念祭には多数の小学生が来校しました。

果たしました。

学校行事や部活動をはじめ、本校の教育活動や様々な取組について、随時ホームページに掲載しています。週に二回は更新して新しい情報を提供しておりますので、ぜひ皆様にもご覧いただければと存じます。

最後になりますが、本校の十周年記念式典は、平成二七年十月十日に実施いたします。今後、都立大学附属高等学校の同窓会の皆様へ何かとご協力いただくことになると思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

- （前ページからつづき）
- 木造瓦葺新校舎3棟完成。東横線、都立高校駅から都立大学駅と改称
- 1951(昭和26)年 都立大学附属高等学校第1回卒業式
- 1952(昭和27)年 1学年3学級、定員150名
- 1960(昭和35)年 1学年4学級200名に増加
- 1963(昭和38)年 鉄筋コンクリート4階建て校舎落成。生徒急増対策のため1年生のみ7学級
- 1964(昭和39)年 1学年6学級(男子200名、女子100名)となる
- 1967(昭和42)年 学校群制度実施。広尾・目黒とともに第23群
- 1969(昭和44)年 3月第19回卒業式中止。以後8年間卒業式は行われない。
- 9月第一次学園紛争
- 1971(昭和46)年 鉄筋4階建て校舎A棟新築
- 1972(昭和47)年 第4次学園紛争 授業不能
- 1974(昭和49)年 定員男女同数(135+135)に。B棟完成。A棟増築完成。木造校舎取り壊し
- 1982(昭和57)年 都立高校入試グループによる合同選抜実施。新教育課程実施
- 1991(平成3)年 都立大学、八王子南大沢に移転
- 1999(平成11)年 東京都、都立大学附属高等学校を改組し、6年制中等教育学校とすることを決定
- 2005(平成17)年 6年制一貫校の校名「東京都立桜修館中等教育学校」に決定。首都大学東京発足
- 2006(平成18)年 都立大附属高等学校定時制、閉課程。桜修館中等教育学校開校、1期生160名入学
- 2008(平成20)年 都大附高最後の61期生入学
- 2011(平成23)年 東京都立大学附属高等学校閉校。最後の卒業式。校旗、校歌、校章は桜修館が継承。中庭の閉校記念碑「繁栄」除幕
- 2012(平成24)年 桜修館中等教育学校第1回卒業式、1期生150名卒業
- 2014(平成26)年 府立高等学校創立85周年

フィールドワーク部が受賞 第2回「八雲が丘賞」

第2回「八雲が丘賞」を、桜修館中等教育学校フィールドワーク部が受賞しました。昨年9月8日、第66回記念祭の閉祭式の中で表彰式が行われ、都大附属同窓会からフィールドワーク部

の皆さんに、表彰状と記念品代(10万円)が贈られました。この賞は一昨年制定されたもので、都立桜修館中等教育学校の生徒たちの優秀な部活動や課外活動に対し



表彰されたフィールドワーク部(部長・中西千聡さん)の皆さん



表彰状と記念品代が贈られました

て、都立大学附属高等学校同窓会から贈られます。昨年の第1回の受賞は、日本文化部・茶道部門の皆さんでした。

**ユニークな活動
フィールドワーク部**
狭義のフィールドワークとは、何かの課題について

研究する際、実際に現地を訪れて聞き取り調査や資料の収集を行ったり、対象を直接観察するなど、客観的な成果を上げるための調査技法です。地理学では「巡検」といいます。

桜修館のフィールドワーク部は、より幅広い活動を行っているのが特徴です。部員自身の興味や関心によって、目黒区内に限らず都内各地の史跡や施設の巡検を行う一方、地域でのお祭りなどの行事に、ボランティアとして参加して清掃を行ったりしています。

また、学校内では清掃活動を行うほか、畑での野菜の栽培がユニーク。記念祭の期間中、桜修館を目指す小学生を対象として行う校内案内は、好評を博しています。

**生徒自らの
創造性が魅力**
フィールドワーク部に



第2回八雲が丘賞の表彰状

「八雲が丘賞」規定

- 趣旨**
この賞は、東京都立桜修館中等教育学校の生徒による優れた部活動、課外活動に対して、東京都立大学附属高等学校同窓会から贈られるものです。
- 賞と対象期間**
賞の対象期間は、4月から次年3月までの1年間とし、「優秀賞」および「奨励賞」の二つを設定します。2年以上にわたって顕著な実績を上げた活動に対して「大賞」を贈ることがあります。賞は、記念品または同等金額の活動費支援とします。
- 基準**
賞の選考基準は以下によります。
①年間を通じて継続的に活動を展開し、十分な実績を上げたもの
②前年度に比して活動の内容に顕著な向上が見られたもの
③対外試合、コンクールなどで優秀な成績を上げたもの
④その他桜修館生徒にふさわしい優れた活動を行ったもの
- 選考**
対象となる活動について桜修館中等教育学校の推薦をうけ、都大附属同窓会理事会において決定します。
- 賞の贈呈**
前年度を受賞活動に対し、原則として次年度記念祭の期間中に表彰し、賞の贈呈を行います。
(付記)この規定は、平成25年4月1日より施行します。ただし、賞の対象期間を平成24年度に遡って実施します。

入った動機を聞いてみると、「いろいろな所へ行ってみよう」という活動に心ひかれた」と「落ち葉掃きをしてもらった」などの答えが返ってきました。「運動系とも文化系とも言える部活動に興味をもった」というのは、まさに「目的を決めて、歴史や特徴を自分たちで調べて話し合い、お互いに高めあえる」「巡検でいろいろなところを見学できる」のが楽しいという声のほかに、畑

の農作業が楽しいという部員もいて、フィールドワーク部の守備範囲の広さと活動の創造性の高さは、大変魅力的です。

**生徒の多様な活動を
応援します**

桜修館の部活動や生徒の課外活動には、目立たないけれど長くやっている、と評価出来るものが少なくありません。そうした活動を応援することを通じて、桜修館の現役生徒と私たち同窓会とのつながりを、より緊密なものにしていきたいと思います。

2013年度決算報告

2013(平成25)年度の決算は、表Ⅱの通り単年度収支で120万円余の赤字となりました。これは会費収入が予算に対して大きく不足したことによるものです。支出は対予算61万円のマイナスとなっています。

<収入>

収入のほとんどを占める受け取り会費は、3年会費が97万円(194人)、終身会費は72万円(24人)でした。会費収入予算350万円に対して180万円余の不足となっています。現行の会費が、終身会費と3年会費であるところから、収入予測を立てにくいことが影響しています。ちなみに2012年度の会費収入は、760万円でした。

<支出>

支出の中心は、会報の制作・印刷・発送費で220万円、全体の3分の2強を占めています。他ではコンビニでの会費収納手数料、「八雲が丘賞」記念品代を含む記念祭費、会議費などがまとまった支出です。予算に計上されたホームカミングデー経費、沿革史パネル制作費はともに来期に延期されたため、支出減の要因となりました。

同窓会の会費と会費収入

2011年4月の同窓会総会で「会費」を新設し、同年の12月に発行された会報で初めて会費納入のお願いしてから3年がたちました。母校の閉校により新卒業生からの入会金収入がなくなったことによる措置だったことは、ご承知の通りです。

2013年1月、2014年1月と、計3回会報で会費納入のお願いをした結果、次のような会費の納入状況となりました。

年度	3年会費	終身会費
2011年度分	188万円	339万円
2012年度分	412万円	348万円
2013年度分	97万円	72万円

会員数にしますと、3年会費を納入いただいた方が1394人、終身会費を納入いただいた方は253人。合計1647人です。

会費が、3年分あるいは終身という形であるため、単年度の収入が見極めにくいのですが、3年会費3年分計697万円を3で割ると232万円強となります。終身会費計759万円は、基金的なものとして単年度の収支からは外して考えています。

現在の同窓会活動の規模を維持し発展させていくためには、232万円では足りません。終身会費を除く会費収入が年350万円、会員数700名が必要だと言えます。現状は465人(1394人÷3)ですから、あと少し会員の皆さんの協力が必要です。

<会費規定の改定>

3年会費と終身会費という現在の会費を今後どうするかについては、2013年度下期「理事・監事・評議員会議」で、年会費一本に改定する基本方針を決定しました。6月の総会で、理事会の考え方と会則の細則改定の具体的条文についてご確認いただくことにしています(1面参照)。

【表Ⅰ】2013年度貸借対照表(財産目録)

(2013年10月1日～2014年9月30日)

科目・摘要	金額(単位:円)
I 資産の部	
流動資産	
現金及び預金	
現金	3,498
ジャパンネット銀行	293,827
みずほ銀行	12,551,464
ゆうちょ銀行	1,531,450
現金及び預金計	14,380,239
頒布図書在庫	
名簿	114,000
閉校記念誌	15,000
頒布図書在庫計	129,000
資産合計	14,509,239
II 負債の部	
未払金	0
負債合計	0
III 正味財産の部	
前期繰越正味財産	15,727,610
当期正味財産増加額	-1,218,371
負債及び正味財産合計	14,509,239

【表Ⅱ】2013年度正味財産増減計算書

(2013年10月1日～2014年9月30日)

科目・摘要	金額(単位:円)
I 経常収益	
1、受取会費	
3年間会費	970,000
終身会費	720,000
受取会費計	1,690,000
2、事業収益	
名簿売上	45,860
寄付金	8,000
事業収益計	53,860
3、利息収益	1,777
経常収益計	1,745,637
II 経常費用	
1、会報費	
会報印刷費	1,282,727
会報発送費	788,490
会報作成費	132,300
会報費計	2,203,517
2、事業費	
名簿原価	45,500
記念祭費	149,556
事業費計	195,056
3、経常管理費	
通信費	65,528
交通費	4,990
手数料	365,933
会議会食費	96,360
事務用品費	21,246
雑費	11,378
経常管理費計	565,435
経常費用計	2,964,008
III 経常外収益	0
当期正味財産増減額	-1,218,371
前期繰越正味財産額	15,727,610
正味財産期末残高	14,509,239

監査報告：提出された2013年度の帳簿等を精査し、上記財務諸表等に誤りがないことを確認します。

2014年11月11日 監事

笠原利憲 

事務局インフォメーション

会費納入のお願い

今回、納入をお願いするのは、1期から59期の卒業生です。卒業後5年未満の60期、61期の方は会費免除です。

昨年度および一昨年度に3年会費5000円を納入された方、および終身会費を納入された方も、対象外です。対象の方には、会費納入のための払込取扱票を同封いたしました。対象外の方には同封されていないはずですが、行き違いで万一同封されていた場合はご容赦ください。

3年会費は5,000円、終身会費は30,000円です。

【振り込みの方法】

●ゆうちょ銀行〔郵便局〕＝3年会費

同封の「払込取扱票」に、住所、氏名など必要事項を記入して、郵便局で納入してください。

●コンビニ＝3年会費

同封のコンビニ専用「払込取扱票」をそのままお持ちいただきコンビニで納入してください。

●銀行振り込み＝3年会費、終身会費

ジャパンネット銀行すずめ支店(支店番号002)

普通預金 6271398

(口座名義) トウキョウトリツダイガクフゾク

コウトウガッコウドウソウカイ

(漢字表記は、東京都立大学附属高等学校同窓会)

ATMから振り込む場合は、振込人名を修正して、名前の前に卒業期・クラスを入れてください。

(例=13A トリツタロウ)

ネットバンクをご利用の場合は、ATMと同様に振込人名を修正するか、通信欄に卒業期・クラス・氏名を入力してください。

同窓会への連絡方法

住所の変更、その他の同窓会への連絡は、下記のいずれかをお願いします。

① <http://yagumokai.org/> から
トップページ左側の(ご連絡) Contact ボタンをクリックするとメールフォームが出ます。

② 郵送 〒152-0023 東京都目黒区八雲 1-1-2
都立桜修館中等教育学校内
都立大学附属高等学校同窓会

または 〒152-0002 東京都目黒区目黒本町 4-23-6
六戸方 都立大学附属高等学校同窓会 事務局



母校の閉校にあたり、卒業生、教職員の著書を集めて開設された「八雲が丘文庫」に右の著書の寄贈がありました。

<寄贈いただく場合の送り先>

〒152-0023 東京都目黒区八雲 1-1-2
都立桜修館中等教育学校内「八雲が丘文庫担当」
電話03-3723-9966 (恐れ入りますが送料のご負担をお願いいたします。卒業生・教職員の著作以外は受け付けておりません。)

「八雲が丘文庫」寄贈図書

『有機化学のための分子間力入門』	西尾元宏(5期)著	講談社
『分子論からみる有機化学』	西尾元宏(5期)著	講談社
『CH/ π INTERACTION』	MOTOHIRO NISHIO著	WILEY-VCH
『砂糖はなぜ甘い』	西尾元宏(5期)著	講談社
『蒸気機関車讃歌』	山岸起一郎(15期)著	クレオ
『台北近郊 魅力的な町めぐり』	川田秀文(14期)共著	ダイヤモンド社

2013年度^(2013.10.1～2014.9.30)の会議ほか

- 2013年 11月 1日 2012年度会計監査
11月30日 第15回八雲が丘学友会
12月11日 学フォーラム
- 2014年 1月18日 上期「理事・監事・評議員会議」
3月 5日 拡大常務理事会
3月15日 第16回八雲が丘学友会
6月21日 下期「理事・監事・評議員会議」
6月21日 第17回八雲が丘学友会
7月29日 拡大同窓会報編集委員会
8月23日 第18回八雲が丘学友会
9月6・7日 第66回記念祭「八雲が丘の集い」出展
9月 8日 第2回「八雲が丘賞」表彰式

名簿の整備と活用について

現在、同窓会では出来るだけ多くの会員に、会報をお届けしたいと考え、各期の理事・評議員の方を中心に名簿原簿の整備作業を行っています。引越などによる名簿情報の変更、訂正をぜひお寄せください。理事・評議員を通じて、あるいは直接事務局へ郵送で、またホームページのメールフォームを使って、など方法は問いません。

名簿は、会報の発送先として使用する他は、クラス会、同期会、OB会などの開催のために活用していただきたいと思っています。必要がある時は、事務局までお問い合わせください。

<同窓会名簿>

『同窓会名簿 2005』は、56期～61期の別冊を含め、まだ若干部数が残っています。2,500円(送料とも)でお頒け出来ます。ご希望の方は事務局までお申し込みください。

<44期の皆さんにお詫び>

2005年に発行された『同窓会名簿 2005』に大きな間違いがありました。44期6クラス分がそっくり46期と置き換わっています。原因は不明ですが、原簿データでもそのようになっていました。今回、卒業時の住所に遡って44期の皆さんの住所録整備にとりかかっています。心からお詫びするとともに、正しい住所を事務局までご連絡いただければ、と思います。



立て看板、幟が競い合う中庭



パシモンホールに面した大看板

昨年の9月6・7日の両日、都立新制高等学校以来の伝統を引き継いで回を重ね、今回で66回を数える記念祭が行われました。
 ゲートをくぐり受付を済ませると、雨対策のビニールシートでカバーされた色とりどりの立て看板がต้อนรับしてくれます。
 中高生とおぼしき見学者もチラホラ見かけますが、やはり圧倒的な多数派は小学生とその家族。前年の2

第66回記念祭報告

3割減といった感じではありますが、アメ横状態が続いて見学もままならない事態が緩和され、むしろ適正な状態になった感がありました。



今回のプログラム



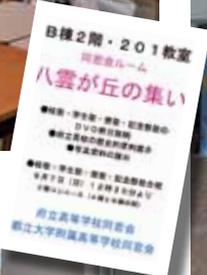
雨対策で飾り付けも外され、ちょっと寂しいゲート周り



やはり主役は、小学生とその保護者



いろいろ質問を浴びせる現役生徒たち



7日朝は小雨の中のオープンとなりました



初めてプロジェクターを活用した合唱イベント



同窓会の部屋には写真や同人誌、機関誌などの展示物



サブアリーナでのコンサート



メインアリーナでの吹奏楽部「サーカすいそがく!!」の演奏



カラフルな飾り付けで賑わう模擬店



繁盛店はご覧の通り



通路も立派な展示場



時を超え世代を超えて歌声はひとつに



ファイヤーの炎に彩られて、みんな生き生きと輝いていた



校長先生にもお入りいただいたの記念サツエイ

同窓会としては、前年と同じB棟2階201講義室に、同窓会の部屋「八雲が丘の集い」を出展。例年の如く写真パネルや歴史を物語る資料などを展示し、「校歌・学生歌・寮歌・記念祭歌集」のDVDを終日放映しました。

さらに7日の日曜には、2階コンコースにスクリーンとプロジェクターを運び、定例となっている旧制府立

高校同窓会有志を中心とする校歌などの合唱を、DVDに合わせたイベントとしました。例年に比べて参加した都大附高の同窓生が増え、桜修館の校長先生はじめPTAの方々の参加もあって、手応えを感じました。

今年の記念祭も9月前半の開催です。ホームページなどで確認のうえ、ぜひご来校、ご参加ください。

學フォーラムの講師をつとめて

「自分を信じ未来を信じる力をもつために」

小幡万里子・35期（1985＝昭和60年卒）



桜修館中等教育学校の前身、東京都立大学附属高等学校卒業生の私が経験した高校時代を振り返りながら、15歳、16歳という思春期まっただ中の生徒の皆さんの前で、母の目、経営者としての目、人生の先輩としての目―3つの視点からお話をさせて頂いていただきました。

40名近い生徒の皆さんは姿勢よく真っ直ぐな視線で講演を聞いてくださいました。何かを吸収したい！という気持ちを強くもっておられるのだと、世の大人の社会にいると失われがちなかつての自分のハイスタールエイジを思い出すようなピュアな目の輝きに触れ、嬉しい緊張の中でお話をさせて頂いていただきました。

他の講演者の方は、15歳のハローワーク的な「私の仕事はこんなこととしています」といった内容が多く、それらの中で、「どんな時にでも、どんな環境の変化の中でも揺らぐことのない自分をもつために」という私のテーマを選択してくださった生徒さんたちは、生きることを、そして、働くということを真剣に考えようと思っているように見受けられました。

当初、學フォーラムの講師の打診をいただいた際に、どういう趣旨のものですか？とお聞きしました。2000年、生田茂校長（都立大学・首都大学名誉教授）が「学び」ということとの原点は旧字体の「學」にある、ということから始まったようですが、なんのために、どんな目的で毎年続けているの



を拾わせていくことが学びであるということをお伝えたいと思いました。

「學」には未熟なものに伝授するという意味と、五感を使って真似をすることで自分の身につけると言う二つの意味があります。講演後、桜修館中等教育学校の自治会会長から連絡をいただきました。「もっと、ほんものの人生を学びたいんです！」と。今、彼は、周囲におられる優れた大人たちから学びを得、高校生ながらに企業の顧問役までを務めるように成長しています。

僅か40分程の私の話が、未来の可能性の一助となるきっかけをいただきました。出会いに、驚きと共に、機会を与えていただいた同窓会の友人たちに心から感謝しております。「二期一会」の重みを感じております。

インターネットで「學フォーラム」と検索いただくと、講演内容を映像でご覧いただくことができます。ご興味がございます方は、ぜひご覧くださる。

（倶楽部マネジメント 代表取締役）

寄稿

第32回 八雲展

瀬川智貴・29期

32回を数える「八雲展」が2014年5月9日～14日、例年通り品川区・大崎のO美術館で開催されました。今回は、出品者37名、来場者は約900名を数えましました。

したが、この会のお陰でいろいろ含蓄あるお話等も伺え、刺激を受けたことは幸運だったと思います。その大先輩方も年々少なくなり、仕方のない事とはいえ寂しい限りです。

八雲展は旧制から新制初期に美術を教えられていた漆絵の大家、松岡正雄（大和）先生の教え子達によって始まった会です。第20回からは、その後の美研OBと都立大学の方が加わり、リベラルな校風そのままにプロアマ問わず和気藹々とやっております。

私が高校在学時に聞かされていた旧制の方々と云えば、まさに雲の上の存在です。

この会では、50代の私たちが一番若手です！（笑）もっと若い方々は仕事や育児等で何かと忙しいことと思いますが、ぜひご参加ください。こういう目標があれば久しぶりに絵筆を取ってみようかという気になるものです。私たちの期は、年に一度ここに集まり、作品鑑賞を肴に一杯やるのを楽しみにしています。そんな楽しみ方も歓迎です。



会場には油彩、水彩、日本画、墨絵、彫刻、イラスト、CG動画、パッチワークなど美に多様な作品が並びます。今年は5月8日～13日、O美術館で開催予定。お待ちしております。ホームページはyakumotenで、検索してみてください。

同期会・クラス会レポート

第8期 同期会

日時：2014年11月22日（土）
会場：表参道・NHK青山荘
参加者：42名

1958年3月に卒業した8期生（人呼んで厄介生）は、いつのころからか毎年11月の最終土曜日ごろに青山荘で同期会を開いている。ここ10年の出席



者は40〜50名で推移しており、閉会時に次年度の幹事4名を選出し、会場を仮予約するというシステムである。

今年は常連の参加者に加えて長期の米国滞在から帰国されたS君が初参加するということで帰国談が期待されていた。残念ながら当日朝体調を崩して緊急入院したという開会直前の病院からの電話でドタキャン。いつも張り切って参加していたKさんがついに現れないので電話したら家において平然と「来週でしょう」と言っていたという報告で閉会した。いずれも新米の後期高齢者らしいハプニングでドタキャン2名。2011年4名、2012年3名と続いて、恒例になるかと思われた冒頭の黙祷が昨年は途絶えたが、今年1名で復活。累計19名。

在校中は一言も言葉を交わしたことがない相手と、半世紀たっているのに一瞬のうちに親しい友人になれる魔法のような個別歓談の時間と、今年の特別の話題をもった何人かのスピーチの時間をどう組み合わせるかが幹事の腕の見せ所である。今年は前者に重点を置いた。

スピーチのトリは例年Y君に決まっている。自動車教習所で鍛えた技術が老人会で磨きがかかり、安倍政治と最近の世相に吹き矢を放った。

（須田大春・記）

第13期 古稀記念同期会

日時：2014年6月15日（日）
会場：新宿京王プラザホテル
参加者：62名

私たち13期生は、ほとんどがこの3月末までに70歳の古稀を迎える。同期会は今世紀に入って毎年開かれているが、最近参加者がやや固定化されていた。そんなこともあって、古稀記念の同期会を少し盛大にやろうじゃないか、との声は前年の同期会の時から聞



こえていた。

古稀だけに参加70人が目標。各組ごとに世話人を決めて丁寧に参加者を募ったところ、目標に近い62人の同期が集まった。久方ぶりの顔もあり、遠方からの顔もあり、初夏の新宿の地上42階の夜は、実に楽しいものとなった。スクリーンに歌詞を映し出して学生歌、記念祭歌、校歌を歌うころには、50余年の時を超えて、参加者全員が高校時代の気分に戻っていた。

（世話人会・記）

第14期 卒業50周年記念同期会

日時：2014年4月19日（土）
会場：神田「如水会館」
参加者：90名

14期の卒業50周年記念同期会が、神田の如水会館にて2014年4月19日に開催されました。当日は天候にも恵まれ、春の暖かい陽の中、約200名の卒業生の内、90名が集まり盛況の会になりました。

50周年という節目、そして60歳代終わりの年ということもあり、皆それぞれ胸に期する思いがあったのだろうと思います。それぞれにこれまでの人生を、風格ある風貌の中に表していましたが、話を始めるとプラタナスの下

同期会・クラス会レポート



で語り合っていた頃の顔に一瞬にして戻ってしまいます。ほとんどの人がそのまま二次会に流れ、現状報告・懐かしい思い出と終わる事なく楽しく語り合いました。

今回も参加のご予定だった喜多迅鷹先生が急の病のためご欠席となり、今回は恩師がごなにもご参加いただけなかったことが唯一残念なことでした。

(千谷基雄・記)

第16期 G組クラス会

日時：2014年2月15日(土)
会場：渋谷「パンダレストラン」
参加者：14名

45年ぶりの大雪！記念すべき第10回のクラス会がこんな日に重なってしまったとは。

実施するか否か、ぎりぎりまで迷うが、深夜に雨に変わる。この予報に期待して開催した。が、なんと早朝に東横線が脱線事故。とんでもない日になってしまった。6人がやむなく断念。なかには皆勤を誇っていた方もいて、申し訳ないことだった。



一人ひとり「足」の確保が大問題だったが、歩いたりバスで大まわりしたりと、何とか工夫するもので、開始時間までには、参加者14人のほとんどが揃った。

みんな、まだまだ元気である。会場までの「たどり着き方」から話が始まり、青森から駆け付けた方、20年の海外勤務が終わって久しぶりに参加した方などを囲んで、賑やかな懇談が続いた。

最後に、元気に「吹きすさぶ」などを歌いあげ、雪の残る道を安全第一で家路に向かった。まことに「記憶に残るクラス会」だった。

(黒田和雄・記)

第22期 同期会パーティー

日時：2014年5月31日(土)
午後3時～6時
会場：渋谷「シダックスホール」
参加者：147名

前回実施から実に20年ぶりの同期会を想い出深い渋谷で開催し、145名の同期生が参加しました。

また、来賓として元担任のB組上田先生とC組久野先生をお招きしました。会場では、卒業以来の再会や20年振りに再会した喜びの輪と歓声があちこちで広がり、固い握手や肩を抱き合う光

景が見られました。

後半は恒例の記念祭歌を、全員が輪になって肩を組み声を張り上げて熱唱、その後クラス毎に参加者全員の記念撮影を楽しんで行きました。

最後は幹事の秋田君(C組)が「次回同期会パーティーを5年後に開催します。また元気な姿で再会しましょう。」の言葉で締めくくりました。

(内田稔・記)



